

令和5年度 野村ダムモニタリング委員会の議事概要について

令和5年度野村ダムモニタリング委員会を下記のとおり開催しましたので、議事概要を公表します。

記

開催日 : 令和5年10月2日

開催場所 : 会場・WEB 併用方式 (会場 : 肱川ダム統合管理事務所)

出席者 : 委員 松井委員長、石川委員、井上委員、氏家委員、中澤委員、治多委員
森脇委員、吉富委員

オブザーバー 愛媛県土木部河川港湾局長

○目的

「四国地方ダム等管理フォローアップ委員会」規約に基づき、野村ダム堰堤改良事業の環境への影響等に関する事項及び事業執行の効率化並びに事業執行上の課題解決等について、事業者へ指導・助言を行うことを目的に開催しています。

○審議概要

◆委員等発言、 ⇒事務局発言

1. 環境モニタリング等の実施状況

(1) 植物重要種の移植及びモニタリング

◆ 移植方法及びモニタリング結果について、現時点では問題はない。

(2) 水質の現況及び水質汚濁防止措置

◆ 水質調査項目において、大腸菌の値が報告されていないが、工事において特に監視項目としないのか。

⇒ 工事内容が、土砂掘削、コンクリート打設、ダム堤体切削であり、流域から発生する大腸菌などによる貯水池内の水質汚濁は、通常の水質維持管理のフォローアップ委員会での報告としている。

◆ 法面掘削等もあるので、濁水処理について適切に対応をお願いしたい。

⇒ 工事で発生する濁水は、濁水処理プラントを整備し、処理した水を河川に排出する。排出に当たっては、モニタリングを実施し記録を残すこととしている。

(3) 掘削法面の安定性と緑化検討

- ◆ ダム下流法面の樹木は、学識者の指導を受けながら、その土地の潜在自然植生の樹種を植樹する方式で復元したものである。ダム下流法面の樹木は、学術的にも価値のあるところであり、SDGsの生物多様性の保全・創出の観点からも、ダムの見学にあわせて紹介するなど取り組んでもらいたい。
- ⇒ 現場見学などで来られる方々に紹介していく。
- ◆ 緑化方法が植生基材吹き付けであるが、一般的な植生吹付けは、ほとんどが外来種であり、良い植生ではない。吹き付けを行わないのも選択肢ではないか。
- ◆ 厚層基材吹き付けをせずに、自然飛来性の種子での緑化を期待する考え方もある。
- ◆ 掘削法面の緑化については、委員の指導を得ながら適正に行って欲しい。
- ⇒ 法面上部の緑化の施工方法や種子等の仕様など、自然植生の検討については、委員のご指導をいただきながら取り組む予定。
- ◆ 緑化は、法面だけでなく小段や平場なども含めて検討していただきたい。

(4) 環境全般、総括

- ◆ 環境モニタリング等の実施は、適正に行われていることを確認した。

2. 今後の事業工程

- ◆ 工事を取り巻く環境が厳しくなりつつある中、安心・安全を確保しながら1割弱のコスト削減を実現されていることは、評価したい。
- ◆ 前例の少ない事業であり、将来的な事業費については、心配がある。不確定要素を加味しているとのことだが、どの程度を見込んでいるのか。
- ⇒ 法面対策規模が増加することによる追加として3億円を見込んでいる。
- ◆ コンクリートは、製造設備を取りやめることで大幅なコスト削減に繋がったことは評価できる。コンクリート製造業者数が多くない場合、不測の事態があれば対応出来ない可能性はないか。
- ⇒ 野村ダムの最近傍の製造業者から供給を受ける計画としているが、不測の事態があれば、近隣業者の共同組合管内で、連携を取って対応することが可能と聞いている。
- ◆ 上流仮締切の設置は、濁水発生の要因とはならないか。堤体掘削では、工事後の初期通水時に濁水が生じることはないか。
- ⇒ 上流仮締切は、鋼製材料を組み立て、ダム堤体に貼り付ける工事であり、濁水の発生は極めて少ないと考えている。また、トンネル通水時の濁水について、ダム下流右岸側に濁水処理プラントを整備し濁水を処理することとしている。なお、堤体掘削はコンクリートを掘削するが、通水は、鋼材の放流管中であるため土砂等の濁りは発生しないと考えている。
- ◆ 濁水処理施設の脇に電気関係設備が設置されているが、増水時に浸水しないか。
- ⇒ 濁水処理プラントは、減勢工よりも高い位置に設置するため洪水の影響はない。
- ◆ 上流仮締切は出水期を跨ぎ複数年度で工事を実施するが、出水中の水位変動により浮

カバランスが適切にとれるかなどの懸念もある。入念な計画で万全の体制を整え工事を実施していただきたい。

⇒ 工事施工者と十分な協議・調整を行いながら、工事が安全に出来るように取り組む。

3. オブザーバーからの意見等

◆ 愛媛県も国と連携して肱川の治水に取り組んでいる。野村ダム改良事業について、本事業が環境を守りながら適切に実施されていることが改めて確認できた。

◆ 全国2例目の工事であり、安全管理に十分な配慮をお願いしたい。工程については、肱川流域の安全・安心のため1日も早い完成をお願いしたい。事業については、コスト削減の報告を頂いたが、引き続きコスト削減に努めて頂きたい。

⇒ 工事の安全管理、工程管理は、施工業者・発注者が一体となり、事故なく、円滑に工事が完成できるよう取り組んでいく。事業について、今後も様々な課題が発生する可能性があるが、コスト削減の検討を行い、事業費の範囲内で完成できるよう取り組んでいく。

4. 審議結果

◆ 大きく2つの議題について、本委員会として事務局提案について了解した。

以上